

## 教育方法・履修指導方法

本学の教育目標及び人財育成の目的を達成し、学生の意欲及び潜在能力を高める教育を実施するために、以下の教育並びに指導方法を導入する。

### 1 特色とする教育方法

#### (1) 「英語」について

「英語ⅠA～F」については、入学後のオリエンテーション時に英語学習傾向試験を実施し、その結果を基に履修する科目を決定する。また、「英語ⅡA～F」、「英語ⅢA～F」、「英語ⅣA～F」については、学生の主体性と学修能力に応じて、科目担当教員と相談し、履修科目を決定する。

#### (2) 授業科目の段階的履修

教養教育科目は豊かな人間性と幅広い視野とを養うことを目的として、1年次から3年次に配置する。専門基礎科目については、大部分の科目を2年次までに履修し、専門教育科目のうち、必修科目を1年次、2年次において履修し、選択科目を3年次、4年次において履修する、系統的で段階的な履修を可能とする。

動物看護学の基礎を学ぶ為には、基礎実習科目を1年次において他の講義科目と並行して履修していくことが不可欠である。動物臨床看護学に関する講義・実習科目は、基礎・内科・外科・総合という段階を経て履修していく。

#### (3) アssenブリーアワーⅠ（動物と看護）等

本学の「建学の精神」及び「教育理念」を学び、「動物愛護の精神に則り共生の思想と倫理観を備える」為の科目であり、重要な科目として位置づけられる。

1年次においては、動物愛護の精神に基づいた本学における動物看護教育の歴史を中心に学び、動物看護に関する幅広い教養を身につける。2年次においては、動物生態系や動物への深刻な影響、災害時に必要な動物保護、動物看護を巡る環境等について事情を把握し、動物と環境を巡るさまざまな教養を身につけ、知識を広げる。3年次においては、日本社会における伴侶動物とヒトとの様々なかかわりを取り上げ、現場で求められる動物看護学の知識や技術を深化させる。4年次においては、社会における動物とヒトの多様な関係を修得し、併せて、社会に巣立つ前に社会人としての基礎力を身につける。

#### (4) 専攻について

動物看護学部では、学生の興味関心や卒業後の進路を踏まえ、1年次終了時

に動物看護学専攻または動物人間関係学専攻をいずれか選択し、2年次より専攻に分かれて学ぶ。

動物看護学専攻においては、コンパニオンアニマルを主たる対象とした動物看護学を修得する為、動物の臨床看護や健康管理など、動物人間関係学専攻においては、動物関連産業、動物介在活動、動物愛護や福祉など、それぞれの専攻にかかわる基本的な理論・技術を体系的に学修し、これからのこれらの分野に求められる知識と技術を養う科目編成となっている。

## 2 履修指導方法

### (1) GPA 制度の採用

本学では、学生の学修意欲並びに潜在能力を向上させる為の成績評価として、GPA (Grade Point Average) 制度を実施する。学生の成績評価方法として、授業科目ごとの成績評価を5段階 (S、A、B、C、D) で評価し、それぞれに対して、4、3、2、1、0 のポイントを付与し、この単位当たりの平均 (GPA) を算出する。授業科目の成績評価は、S (100点～90点)、A (89点～80点)、B (79点～70点)、C (69点～60点)、D (59点以下) の五段階とし、S、A、B、C を合格、D を不合格とする。なお、GPA が基準に満たない学生については学修指導を実施する。

具体的には、半期ごとに GPA を算出し、ひとつの学期における GPA が 1.0 未満の学生についてはクラスアドバイザー及びアシスタントアドバイザーから注意と学修指導を行う。1.0 未満の学期が 2 期以上連続した場合は、クラスアドバイザー及びアシスタントアドバイザーから、学生及び保護者と 4 者で話し合いを実施し、注意と学修指導を行う。

GPA による段階的な学生指導により、学士課程卒業の質を確保し、優秀な人材を送り出すことを実現する。

### (2) 履修登録の単位数の上限

学生が 1 学期に履修登録できる単位数の上限を 22 単位 (年間で 44 単位) とする。これにより、履修科目の過剰登録を防ぎ、教室における授業と教室外学修を合わせた充実した授業展開を可能とするとともに、学生が各年次にわたって適切に科目を履修し、少数の授業科目を効果的に学修できるようにすることにより、単位制度の充実化を図る。ただし、専門教育科目の総合科目 (7 科目 10 単位) については、履修登録の単位数に含めず、学生が積極的に授業科目を履修し、学修意欲を損なわないように配慮している。

### **(3) クラスアドバイザー制度、オフィスアワーによる学生の個別指導・支援**

各学年のクラス毎にクラスアドバイザー及びアシスタントアドバイザーを配置する。クラスアドバイザー及びアシスタントアドバイザーは、「履修指導」、「基礎学力が不足している学生に対する指導」、「学修上の問題、悩み等に対する生活指導」、「学友会活動の支援」、「課外活動の支援」、「成績不良者や長期欠席者への支援」など学生の学修並びに学生生活全般について、4年間支援を行う。

また、学生の相談に応じる時間として、毎週授業 2 コマ分に相当する時間をオフィスアワーとして設定し、年度当初に学生に周知することで教員とコミュニケーションを取る時間を明確にする。

### **(4) シラバスの活用**

教育内容の周知、科目選択、学修及び各授業時間の調整ができるよう講義内容、授業計画、成績評価基準及び方法、教科書の指定及び参考文献などを記載したシラバスを作成し、オリエンテーション時に履修方法について徹底した指導・説明を行う。